

## 静岡県内市町の地域コミュニティ・協働事例

松崎町・「里山ファクトリー連続講座」

### 住民目線で考える公園整備計画～遊び場づくりは地域づくり～

松崎町では、牛原山公園の再整備について住民参加型の計画づくりを行っていますが、策定にあたって、住民が牛原山で「実際にしたいこと」をイメージし共有するワークショップを3回連続講座で行っています。

今回は、その2回目取材しました！

会場は、「コワーキングスペース ふれあいと一ふや。」と呼ばれる、旧豆腐屋をリノベーションした情報発信拠点。そこに、ワークショップの参加者14名と、静岡大学地域創造学環の学生約20名が集まりました。

連続ワークショップは、「studio-L」と呼ばれるコンサルタントがコーディネートしていますが、今回のテーマは「子どもの遊び場」ということで、東京のNPO法人「プレーパークせたがや」からも講師が来ていました。

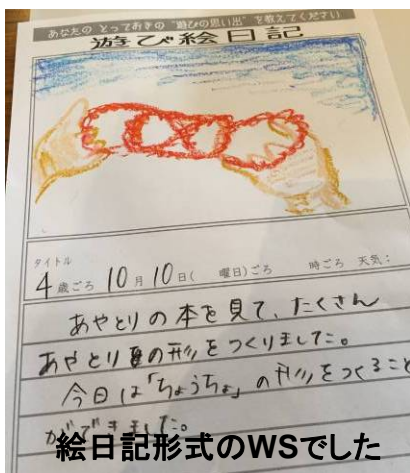
「子どもの頃に何をして遊んだか」「牛原山で実際にどんなことをしてみたいか」など、グループごとに意見をまとめて共有しました。



参加者は老若男女！



発表の様子



「子どもの頃どんな風に遊んでいたか」を共有すると、意外にも、文化や風習があるということが分かり、参加者で盛り上がりました。松崎町の方々は、海と山が近いので自然と一体化したような遊びが多かったようです。

「街の中に遊び場を作る」＝「まちづくり」であることを考えると、地域でどんな子どもを育てたいのかを共有できる場になっていることがわかります。

ワークショップは、「住民手づくりの背伸びしない観光プログラムづくり」(12月4日開催予定)に続きます。

#### 編集後記

世代を超えた「遊びの共有」にはたくさんの気づきがありました！「秘密基地づくり」や「火遊び」など参加者の皆さんの嗜好が面白く、整備計画が楽しみになりました。